

卒業後、色々ありましたが電気工事の道へと歩みました。もらった給料は飲み屋の支払いで終わりという日々を送っていましたが、縁あって26歳で結婚しました。妻の実家は上磯で農家をやっておりました。新婚当時は電話もテレビもない厳しい生活でしたが、朝まで酒を飲んでも仕事だけは休みませんでした。子供が出来てから少しずつ変わってきたのかなあと感じていたのですが、誰も変わったという人はいませんでした。しかし、現実を見てみると少々変わったかなあと感じています。そして、29歳で独立しまして現在に至っています。電気工事の内外を問わず、電気の仕事ならすべてやっています。これを機会に高橋電工をよろしく申し上げます。

この函館北ロータリークラブに参加させていただききっかけになった山下社長はじめ、クラブの皆様とお付き合いをさせていただきながら私自身の人間教育をさせてもらっています。本当に感謝しております。

何れにしても、諸先輩の皆様にご迷惑のかからない様、一生懸命お手伝いをしていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

最後に、今日この様に頑張って話しをしました自分を誉めてあげたいと思っております。

(会報担当者：吉村 眞治 委員)

Smokin' Clean JT

日本たばこ産業株式会社 函館工場

〒041-0801 函館市桔梗町403番地の2 TEL. 0138-46-4711 FAX. 0138-46-2837

(広告掲載：吉村 眞治 会員)

◎ 11月7日出席報告

会 員	56名	出席率対象会員	54名
		出席規定免除会員	2名
当日出席	32名	当日欠席	22名
他クラブ出席	12名	出席合計	44
出席率	81.48%		

・テレフォンサービス(例会移動案内)電話 23 - 2377 番

次回・12月5日
プログラム

「年次総会」



The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ会報

2001~2002年度 国際ロータリーテーマ
国際ロータリー会長 リチャード D. キング

人類が私たちの仕事
MANKIND IS OUR BUSINESS

藪下 義晴 会長テーマ 『楽しみと親しみのある出逢い・そして感動』



11月21日新入会員卓話 高橋哲二会員

《第1850回例会》 第20号 11月28日(水)

本日のプログラム

卓話「マリンバの向う側に……。」

国際ソロプチミスト函館 会長 市川 須磨子 さん

★会長 藪下 義晴 ★幹事 藤野 明信

例会場:函館国際ホテル 〒040-0064 函館市大手町5-10 TEL23-5151
例会日:毎週水曜日 12:30~13:30 事務局:函館市大手町5-10 二子ビル4F TEL23-3870

11月21日の記録

◎司 会 数下 義晴 会長 ◎斉 唱 奉仕の理想

◎ビジター 函館R.C. 遠藤哲二君・神田勝美君・佐原正三君、
函館亀田R.C. 寺田真三君・柴田明知君

◎会長報告 数下 義晴 会長

○国際ソロプチミスト函館さんより「秋のチャリティ 邦楽のひととき」開催に際してのお礼状が届いております。

◎委員会報告

●職業奉仕委員会 北村 祐治 委員長

「わが社の職業奉仕の理念」の回答、18名しか届いておりません。全員集まるまで待っていますのでよろしくお願いいたします。

◎幹事報告 藤野 明信 幹事

○他クラブ例会変更 11月30日(金)函館五稜郭R.C. 移動例会に変更となっております。

◎親睦活動委員会 阿相 義則 委員

ニコニコBOX投入報告

森 会員……高橋会員の卓話楽しみです。

田畑 会員…… ”

大和 会員…… ”

小笠原会員……BOXに協力。

金子 会員…… ”

新 会員……花をいただきました。

川村 会員……BOXに協力。

松見 会員…… ”

高橋 会員……今日は卓話です。みなさんゆっくりおやすみ下さい。

久保 会員……BOXに協力。

阿相 会員……高橋会員、卓話頑張って下さい。

西尾 会員……昨日ゴルフをしました。

北村 会員……お久しぶりです。他でメーカーキャップしてました。

福井 会員……しばらくでした。

◎新入会員卓話 「函館に移り住んで、今思う事は」 高橋 哲二 会員

私には、苦手なものが二つあります。一つは飛行機に乗る事。もう一つが人前で話をする事です。今日の話しも何を言っているのか解り辛い話しに終始すると

思います。この貴重な時間を皆様有意義に使っていただきたいと思いますので、自分の会社の事とか、目を閉じてゆっくり体を休めていただければ本当に有り難く思います。

現在、52歳になりますが、生まれてから現在までの事の話をしてみたいと思います。題名の「函館に移り住んで今思う事は」とありますが、特別何も思っておりません。題名が必要と言う事で書いたまです。適当な男ですがお許してください。

私は、昭和24年10月27日、三笠市唐松に生まれました。生まれた所は炭坑の町で、札幌より車で一時間ぐらい。とにかく山の中でした。函館に来るまで乗り物にほとんど乗った事がないような所でした。一度小学4年生の時、函館に来て船や電車等を始めて見て、タクシーに乗って感激したのを覚えています。

その唐松に住んでいましたのは中学2年までだったと思いますが、その時の様子を少しお話しします。炭坑が華やかな時代でした。お祭りや行事は山(町)をあげての騒ぎで、喧嘩などは日常茶飯事でした。しかし、近所付き合いやお互いの思いやりは最高だったと思います。遊びの方は、夏は野球やプール、冬はスキーでした。特に唐松からスキーのオリンピック選手(武山さん)が出ている事もありスキーには熱中しました。確か中学一年の時、南空知大会で2位に入ったのを記憶しています(自慢話になりましたが……)。怪我也多くしました。太ももを15針縫ったり、顔面をぶつけて腫れ上がったり……。炭坑と言えば事故ですね。それも落盤事故。これは子供ながらに悲しい思いをしました。連絡があつて蒲団であれば何とか命は大丈夫。毛布と言う事になれば死亡と言う事で……。

昨日、遊んでくれたおじさんが今日——と言う事で本当に悲しかったですね。それにしても炭坑マンは、今思えば元気で良かったですね。親父は暇があれば、マージャン・花札・酒盛でした。しかし、その頃の親父は、とにかく一生懸命働いて家族を養い守っているという感じでした。実際そうだったと思います。私もそういう姿を思い出しながら、俺もと思うのですが……。楽な方ばかり向く性格なものですから「明日できる事は今日しない」という考えで……。本当に困ったものです。

その後、中学二年生の時、親父の仕事の関係で函館に移る事になりました。こちらに来て困った事は言葉です(三笠の方は標準語?)。言葉の意味が解らなくて散々な目にあいました。この時ばかりは、函館という所は何という町だと思いましたが……。

チョット自慢話を

転校して直ぐにスキー部へ入ったのですが、最初の周りの目は何処の田舎者一でした。しかし、その後の道南選手権で優勝してから皆さんの態度が変わりました。その後の大会も負け知らず。その後、役員の方が来て高校生の道南選手権に出てみろと言う事で出場したんですが、今金の三年生に負けて2位でした。これでチョット女性にもてるかなと思ったのですが、それがサッパリで……。

その後、高校へという事になるのですが、とにかく勉強が嫌いで直ぐに働きたかったのですが、先生の進めもあり函工の建築を受けました。これが何を間違ったか合格しました……。これには困りました。函工に行ってから遊びに行く様なもので……。クラブはラグビーとスキー。しかし、スキーはすぐにウイスキーの方に変わって、土曜日には毎日パーティーの開催(停学か退学を覚悟のうえで)。(学校の大先輩には松見社長・森社長がおられます。申し訳ありませんが、私一応後輩にあたります)。そんな毎日だったので卒業する時には苦労しました。